

## <編集後記>

初年次教育学会誌の第6巻 第1号も無事に会員の皆様にお届けすることができました。学会誌も本号で6冊を数え、小学校に入学した子どもが卒業するだけの年月が経っていることに、改めて感じ入るものがあります。

実は、本号から新たに3名の編集委員を迎えるとともに、創刊号から第5巻 第1号まで共に編集をしてくださった2名の委員の方が「卒業」されるというように、委員の交代が行われました。これまで編集に尽力していただいた委員の方には厚くお礼を申し述べると同時に、新しい委員の方にも大変な作業に快くお力添えをいただいていることに感謝の意を表したいと思います。誠にありがとうございます。

今後は、2年ごとに編集委員が交代していきます。一度にすべての委員が交代してしまうと引き継ぎがうまくいきませんので、6名のうち半数ずつが入れ替わる形をとります。すなわち、一人の委員は原則として2期4年務めることとなります。

初年次教育学会は様々な学問的背景をもった会員で構成されていますので、学会誌に投稿される論文にも、非常に大きな多様性があります。投稿者の「本来の土俵」の持ち味を活かしつつ、共通のフォーマットで論文を執筆し、公刊していくことには多少なりとも困難が伴うことと推察いたします。しかしながら、各自が背景に持つ分野の論文執筆上の慣例にそれぞれの執筆者が固執するのではなく、初年次教育学会誌として統一された共通のフォーマットで論文を執筆することこそ、異なる分野の垣根を越えてコミュニケーションを確立していくための有効な手段となるであろうと考えています。そのような環境が整備されていれば、学会誌は会員相互が情報を交換することのできる一つの社交場になり得ると言えるでしょう。

もちろん、編集委員会としては、会員の皆様が論文執筆の際に感じるであろう戸惑いを少しでも軽減したいと考えています。そのために、論文の執筆要領も、より詳細で具体的なものに改訂する作業を進めています。年度が改まる頃には、新しい論文執筆要領とテンプレートを学会 HP にアップしたいと思っております。

上記の通り、編集委員会も少しずつではありますが、よりよい学会誌をお届けできるように、委員の構成を初めとした様々な工夫をこらしていく所存です。会員の皆様におかれましても、積極的に研究論文や書籍の紹介記事などを投稿していただけますよう、お願い申し上げます。

編集委員会を代表して 藤田哲也